

平成 29 年度理事会、学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 60 回一般社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は、中村二郎会長主宰のもとに平成 29 年 5 月 18, 19, 20 日の 3 日間、名古屋国際会議場、日本特殊陶業市民会館、ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋において開催された。これに先立ち 5 月 17 日に理事会および学術評議員会がウェスティンナゴヤキャッスルで開催され、また定時社員総会は 5 月 18 日に名古屋国際会議場で開催された。

1. 平成 28 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 59 回年次学術集会

会 長 稲垣 暢也 (京都大学医学部附属病院
糖尿病・内分泌・栄養内科)

会 期 平成 28 年 5 月 19 日 (木)～5 月 21 日
(土)

会 場 国立京都国際会館ほか

参加者 約 14,438 名

○会長講演

○理事長声明

○Meet the Professor Greame I.Bell, The University of Chicago, USA

○特別講演 森 清範, 清水寺貫主

○特別講演 Daniel J Drucker, Mt. Sinai Hospital, Canada

○特別講演 山極 壽一, 京都大学

○学会賞受賞講演

ハーゲドーン賞 糖尿病の成因・病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法への応用

リリー賞 内皮細胞 DPP4 が演じる病理学的意義の解明

メタボリックシンドロームの病態形成における臓器間神経ネットワークの意義の解明

○会長特別企画

先制医療の実現に向けて

○会長特別企画

そこに糖尿病患者さんがいるかぎり～さまざまな現場における糖尿病診療とチーム医療～

○会長特別企画

日本糖尿病学会/日本老年医学会合同シンポジウム 高齢者の糖尿病治療をどうするか

○シンポジウム

日本糖尿病学会/日本骨粗鬆症学会合同シンポジウム

糖尿病関連骨粗鬆症最前線 他 30 題

○教育講演

経口血糖降下薬 (インスリン分泌促進系), GLP1 受容体作動薬 他 30 題

○JDS/EASD 合同 The 5th East-West Forum : Kidney Disease in Diabetes

○パネルディスカッション

○ディベート 5 題

○教育セミナー

○日本糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議

○若手研究奨励賞 審査口演 15 題

○演題 2,762 演題 (口演 1,163 題, ポスター 1,586 題, 公募シンポジウム 13 演題)

2. 第 51 回「糖尿病学の進歩」

世話人 中村 直登 (社会福祉法人恩賜財団済生会京都府病院 病院長)

会 期 平成 29 年 2 月 17 日 (金)・18 日 (土)

会 場 国立京都国際会館ほか

参加者 4,003 名 (招待者含む)

○レクチャー

糖尿病の概念と疫学—大規模医療データから学ぶこと 他 66 題

○シンポジウム

糖尿病と内分泌疾患のかかわり 他 35 題

○特別企画

在宅糖尿病患者のケア 他 9 題

3. 地方会活動

1) 第 50 回日本糖尿病学会北海道地方会

会 期 平成 28 年 11 月 6 日 (日)

会 場 札幌プリンスホテル国際館パミール

会 長 吉岡成人 (NTT 東日本札幌病院糖尿病内分泌内科)

参加者 673 名

2) 第 54 回日本糖尿病学会東北地方会

会 期 平成 28 年 11 月 12 日 (土)

会 場 仙台国際センター

会 長 片桐秀樹 (東北大学大学院医学系研究

科糖尿病代謝内科学分野)

参加者 1,074 名

3) 第 54 回関東甲信越地方会

会 期 平成 29 年 1 月 21 日 (土)

会 場 パシフィコ横浜 会議センター

会 長 田中 逸 (聖マリアンナ医科大学代
謝・内分泌内科)

参加者 3,039 名 (無料参加者を含む)

4) 第 90 回日本糖尿病学会中部地方会

会 期 平成 28 年 10 月 2 日 (日)

会 場 名古屋国際会議場

会 長 鈴木敦詞 (藤田保健衛生大学医学部内
分泌・代謝内科学)

参加者 992 名

5) 第 53 回日本糖尿病学会近畿地方会

会 期 平成 28 年 11 月 12 日 (土)

会 場 大阪国際会議場

会 長 稲葉雅章 (大阪市立大学大学院医学研
究科代謝内分泌病態内科学)

参加者 2,406 名 (学生および招待者を含む)

6) 第 54 回日本糖尿病学会中国・四国地方会

会 期 平成 28 年 11 月 11 日 (金)・12 日 (土)

会 場 高知県民文化ホール

会 長 藤本新平 (高知大学医学部内分泌代謝
・腎臓内科糖尿病センター)

参加者 913 名

7) 第 54 回日本糖尿病学会九州地方会

会 期 平成 28 年 10 月 14 日 (金)・15 日 (土)

会 場 かごしま県民交流センター

会 長 西尾善彦 (鹿児島大学大学院医歯学総
合研究科糖尿病内分泌内科学)

参加者 1,749 名

4. 年次学術集会・糖尿病学の進歩・地方会の管理・
運営

本学会が主催する年次学術集会の運営を一元的に管
理し、財政負担を削減するために年次学術集会の運営
に関して日本コンベンションサービスと長期契約を行
い効率的な運用に努めている。また、糖尿病学の進歩
および各地方会においても準備状況を適宜報告して頂
き学会事務局でまとめている。

5. 支部長会活動

平成 29 年 2 月 16 日に京都にて第 5 回支部長会が開
催された。

6. 分科会活動

1) 第 31 回日本糖尿病合併症学会 (第 22 回日本糖尿

病眼学会総会と併催)

会 期 平成 28 年 10 月 7 日 (金)・8 日 (土)

会 場 仙台国際センター

会 長 及川真一 (日本医科大学名誉教授 複十
字病院糖尿病・生活習慣病センター長)

参加者 971 名

7. 出版事業

1) 会誌「糖尿病」第 59 巻 4 号, 第 59 回年次学術集
会抄録号～第 60 巻 3 号まで, 13 回発行。会誌
「Diabetology International」Volume 7・Number
2-4, Volume 8・Number 1, 4 回発行。

2) 糖尿病患者向け指導書

①糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版

100,000 部発行

②糖尿病治療の手びき 改訂第 56 版

13,000 部発行

③糖尿病性腎症の食品交換表 第 3 版

15,000 部発行

④糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 版
(ver.4) 増刷なし

⑤糖尿病性腎症の食品交換表 CD-ROM 版 (ver.2) 付
き 増刷なし

⑥ Food Exchange List 増刷なし

⑦糖尿病食事療法のための食品交換表 活用編 第
2 版 増刷なし

3) 医師および医療スタッフ向け指導書

①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 第 3
版 増刷なし

②糖尿病食事療法指導のてびき 第 2 版 増刷なし

③糖尿病療養指導の手びき 改訂第 5 版 増刷なし

④糖尿病治療ガイド 2014—2015 増刷なし

糖尿病治療ガイド 2016—2017 150,000 部発行

⑤糖尿病学用語集 第 3 版 増刷なし

⑥糖尿病遺伝子診断ガイド 第 2 版 増刷なし

⑦糖尿病専門医研修ガイドブック 改訂第 6 版
1,500 部発行

⑧小児・思春期糖尿病—コンセンサス・ガイドライ
ン 増刷なし

⑨糖尿病診療ガイドライン 2016 8,000 部発行

⑩糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニユ
アル 増刷なし

8. 糖尿病週間

平成 28 年 11 月 14 日～20 日, 第 52 回全国糖尿病週
間の行事が一斉に行われた。テーマは「健康長寿」, 標
語は「糖尿病と仲良く歩む いきいき人生」。

9. 国際糖尿病連合会議など

- 1) IDF-WPR Executive Board Meeting(2016.10.27, 台北) への出席
- 2) IDF-WPR Council Meeting (2016.10.27, 台北) への出席
- 3) AASD Annual Meeting (2016.10, 台北) への出席
- 4) 第5回 East-West Forum の開催 (2016.5, 京都)

10. 普及・啓発・後援事業

- 1) 日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
- 2) 世界糖尿病デーへの参加
第10回「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
- 3) 糖尿病と癌に関する合同委員会
- 4) 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会
- 5) 日本糖尿病・妊娠学会との合同委員会
- 6) 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会
- 7) 2016 年度全腎協全国大会 平成 28 年 5 月 15 日
- 8) 第8回「より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座」
生活習慣病改善指導講習会
(東京) 平成 28 年 6 月 12 日
(神戸) 平成 28 年 6 月 5 日～7 日
- 9) 第22回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術集会 平成 28 年 7 月 10 日
- 10) 第4回日本糖尿病療養指導学術集会
平成 28 年 7 月 23 日～24 日
- 11) 第33回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー
平成 28 年 8 月 27 日～28 日
- 12) 第3回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト 平成 28 年 10 月 9 日
- 13) Take ABI & Echo 2016 平成 28 年 10 月 16 日
- 14) 平成 28 年度「糖尿病シンポジウム」
平成 28 年 10 月 16 日
- 15) 平成 28 年度「糖尿病啓発フェスタ」
平成 28 年 10 月 23 日
- 16) 第14回1型糖尿病研究会
平成 28 年 11 月 5 日～6 日
- 17) 糖尿病予防キャンペーン 東日本地区講演会
平成 28 年 11 月 6 日
- 18) 平成 28 年度「食育健康サミット」
平成 28 年 11 月 10 日
- 19) 「糖尿病の検出及び発症予防」事業
糖尿病週間および通年
- 20) 第16回日本先進糖尿病治療研究会
平成 28 年 11 月 26 日
- 21) 第28回分子糖尿病学シンポジウム

平成 28 年 12 月 3 日

- 22) 第28回日本糖尿病性腎症研究会
平成 28 年 12 月 3 日～4 日
- 23) 第12回長寿医療研究センター 国際シンポジウム
平成 29 年 3 月 4 日
The 12th International Symposium on Geriatrics and Gerontology (略称: ISGG)
- 24) 第21回国際疫学会総会
平成 29 年 8 月 19 日～22 日

●庶務報告

1. 総会

平成 28 年 5 月 19 日, 国立京都国際会館にて第 59 回定時社員総会を開催した。平成 27 年度事業報告, 庶務報告, 収支決算報告が承認され, また平成 29 年度事業計画が承認された。第 62 回会長に山田祐一郎学術評議員が選出・承認された。

2. 学術評議員会

平成 28 年 5 月 18 日に開催された。

3. 理事会

定例理事会は平成 28 年 5 月 18 日, 11 月 23 日, 臨時理事会は平成 28 年 5 月 20 日, 平成 29 年 2 月 16 日の合計 4 回開催された。

●会員状況報告 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

1. 役員等

1) 役員

理事 18 名 (27 年度末 17 名, 1 名増)
監事 2 名 (27 年度末 2 名)

2) 学術評議員 712 名 (27 年度末 714 名, 物故者 2 名)

2. 会員等

1) 名誉会員 34 名 (27 年度末 34 名, 追加 1 名, 物故者 1 名)

2) 正会員

28 年 3 月末日会員数	17,353 名
28 年度新入会	572 名
名誉会員へ	-1 名
退会	-452 名
退会内訳	希望退会 309 名
会費未納による資格喪失	103 名
物故者	40 名

正会員 現在数 17,472 名 (119 名増)

3) 賛助会員

28 年 3 月末日会員数	37 名
入会	1 名
退会	-1 名

賛助会員 現在数 37 名

3. 物故会員

名誉会員 長瀧 重信

功労学術評議員 大根田 昭 佐藤 一俊

清水 直容 西川 和典

福田 恒夫

学術評議員 松尾 哲 吉本 幸子

会員 生駒 賢治 稲葉 昌久 内海 信雄

梅村 康義 梅本 雅夫 江藤 澄哉

大岡 陸邦 大木 正久 梶原 慶三

片山 諒一 金川 卓郎 兼松百合子

北澄 忠雄 久保田麻衣子 後藤 峰弘

齊藤 昇 笹村 義一 佐藤 厚子

洲崎 文男 鈴木 和枝 関原 久彦

関谷 正志 高松 弘明 辻 俊三

花本 俊輔 馬場 泰忠 松山 慎一

丸山 太郎 森 立輔 山里 将昭

柚木 孝之 吉田 謙二

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

2. 委員会報告および各種報告

〈出版に関する報告〉

1. 「糖尿病」編集委員会 委員長 吉岡 成人

1) 委員会開催状況 5回(平成28年5月19日, 7月24日, 9月18日, 12月4日, 平成29年2月17日)

2) 論文投稿受付状況及び採択率(平成28年4月1日~平成29年3月31日)(表1)

3) 第59巻4号から第60巻3号までの12誌と「第59回年次学術集会抄録号」を予定通り発行した。以下, 特集4企画, 受賞講演, 会長講演, 委員会報告, 地方会抄録も掲載した。

【特集】

膵β細胞機能不全のメカニズム	59-5
糖尿病と慢性心不全	59-8
SGLT2阻害薬	59-9
肥満糖尿病克服への新たな挑戦	59-11

【受賞講演/会長講演】

ハーゲドーン賞	荒木栄一	糖尿病の成因・病態の分子生物学的解析と新規糖尿病治療法への応用	59-10
リリー賞	宇野健司	メタボリックシンドロームの病態形成における臓器間神経ネットワークの意義の解明	59-10
リリー賞	金崎啓造	内皮細胞 dipeptidyl Peptidase-4 が演じる病理学的意義と腎線維化	59-10
会長講演	稲垣暢也	インスリン分泌研究に魅せられて—臨床から基礎, そして再び臨床へ	59-10

【委員会報告】

糖尿病の死因に関する委員会報告 —アンケート調査による日本人糖尿病の死因 2001~2010年の10年間, 45,708名での検討—	59-9
--	------

4) 利益相反共通指針一部改正(平成28年5月の理事会決定)に伴い, 「自己申告による報告書」の書式を変更し, 8月1日新規投稿論文からの運用を実施した。改訂については, 学会ホームページと会員向けメール配信にて案内, 同時に学会ホームページ掲載の書式の差替えも行った。

2. 「Diabetology International」編集委員会

委員長 春日 雅人

1) 委員会開催状況 1回(平成28年5月29日)

2) 論文投稿状況及び採択率

平成29年3月31日現在

	2013	2014	2015	2016	2017
Total Submitted	79	54	78	99	19
Monthly average	6.6	4.5	6.5	8.3	6.3
Total Decisioned	70	48	74	77	6
(Accept)	54	35	53	44	3
(Reject)	16	13	21	33	3
Acceptance Rate	77%	73%	72%	57%	50%

表1

投稿数	原著	症例報告	短報	委員会報告	編集者への手紙		
96	43	47	4	1	1		
	原著	症例報告	短報	委員会報告	編集者への手紙	計	採択率
採択	23	35	3	1	0	62	83%
否	4	5	2	0	2	13	(前年73%)

3) 出版状況

2016 年 Vol. 7-1～4 までを予定通り刊行した。

4) 委員会報告掲載状況

Title	Volumes & Issues
A large-scale observational study to investigate the current status of diabetes complications and their prevention in Japan : research outline and baseline data for type 1 diabetes—JDCP study 2	Vol. 7-1
Report of the Japan Diabetes Society (JDS)/Japanese Cancer Association (JCA) Joint Committee on Diabetes and Cancer, Second Report	Vol. 7-1
New glycemic targets for patients with diabetes from the Japan Diabetes Society	Vol. 7-4
Glycemic targets for elderly patients with diabetes	Vol. 7-4

5) 依頼論文

Name (Award)	Title	Article Type	Volumes & Issues
Masakazu Haneda	Diabetic nephropathy and transcription factors	Editorial	Vol. 7-1
Takahisa Hirose	Development of new basal insulin peglispro (LY2605541) ends in a disappointing result	Commentary	Vol. 7-1
Susumu Seino	More β -cell researchers are wanted!	Editorial	Vol. 7-2
Akira Shimada	Autoimmunity as an etiology of fulminant type 1 diabetes	Commentary	Vol. 7-2
Hisamitsu Ishihara	Is zinc an intra-islet regulator of glucagon secretion?	Review Article	Vol. 7-2
Kenji Uno (リリー賞受賞論文 2016)	Roles of the interorgan neuronal network in the development of metabolic syndrome	Review Article	Vol. 7-3
Keizo Kanasaki (リリー賞受賞論文 2016)	The pathological significance of dipeptidyl peptidase-4 in endothelial cell homeostasis and kidney fibrosis	Review Article	Vol. 7-3
Hiroshi Ikegami	Immune checkpoint therapy and type 1 diabetes	Review Article	Vol. 7-3
Atsuko Abiko	What is the truth about renin angiotensin blockers for diabetic patients?	Commentary	Vol. 7-4
Toyoshi Inoguchi	Bilirubin as an important physiological modulator of oxidative stress and chronic inflammation in metabolic syndrome and diabetes : a new aspect on old molecule	Commentary	Vol. 7-4

Kazuyuki Tobe	M2 macrophages in metabolism	Review Article	Vol. 7-4
---------------	------------------------------	----------------	----------

6) 投稿規定改訂

倫理審査に関する検討ワーキンググループからの提案に基づき、投稿規定に次の文言を追記し、改訂した。

Authors also should mention the following items in the text.

- ・ Name of institutional or national ethical committee on human experimentation
- ・ Date of approval
- ・ Approval number

改訂については、学会ホームページ、会員向けメールマガジンにて案内した。

7) Associate Editor の専門分野登録

Editorial Manager システムにおける Associate Editor の専門分野登録を徹底した。

8) Medline 申請

Vol. 7-2 のリリース後、申請を行った、PubMed への収載について、今回は見送りとなった。課題は、掲載論文の質を高めること、審査を厳格にして、採択率を下げることである。

9) ホームページのリニューアル

ISI データベースへの収載 (Impact Factor の取得) を目指し、引用件数を伸ばすために、引用が多く見込まれる委員会報告やガイドラインの直近 2 年分の一覧をホームページに掲載していくこととした。

3. 「食品交換表」編集委員会 委員長 石田 均

1) 委員会開催回数：関連小委員会を含めて 6 回

平成 28 年 4 月 3 日 (カーボカウント小委員会), 5 月 21 日 (「食品交換表」編集委員会), 9 月 4 日 (カーボカウント小委員会), 11 月 20 日 (編集合同委員会), 平成 29 年 1 月 29 日 (カーボカウント小委員会), 2 月 26 日 (編集合同委員会)

2) 「腎症食品交換表改訂 3 版」刊行について

「食品交換表 第 7 版」に準拠した内容とすべく進めていた改訂作業が完了し、平成 28 年 6 月 1 日に刊行された。

3) 出版事業

食品交換表および関連書籍の平成 28 年度 (平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月) の売上・発行状況 [() 内の数字は、発行以来の累計部数]。

(1) 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版 (平成 25 年 11 月 1 日 発行)

売上部数：109,133 部 (533,556 部), 発行部数：100,000 部 (600,000 部)

- (2) 食品交換表活用編 第2版 (平成27年1月15日 発行)
 売上部数: 5,167部 (16,940部), 発行部数: 0部 (30,000部)
- (3) 糖尿病腎症の食品交換表 第3版 (平成28年6月1日 発行)
 売上部数: 10,148部 (10,148部), 発行部数: 15,000部 (15,000部)
- 4) 引用許可願いの審査状況
 「食品交換表 第7版」に43件申請があり, 審査結果の内訳は無条件許可2件, 条件付許可38件, 審査中に取り下げ1件, 審査前に取り下げ1件, 審査中1件であった。「交換表活用編 第2版」に4件申請があり, 審査結果の内訳は無条件許可1件, 条件付許可2件, 審査中に取り下げ1件であった。「腎症交換表 第3版」に7件申請があり, 審査結果の内訳は条件付許可7件であった。
- 5) 「カーボカウントの手引き」について
 「食品交換表 第7版」に準拠したものとして「患者向け版」「指導者向け版」の2冊に分けて発行する (平成29年4月11日 発行)。
【指導者向け】
 医療者のためのカーボカウント指導テキスト—「糖尿病食事療法のための食品交換表」準拠—
【患者向け】
 カーボカウントの手引き—「糖尿病食事療法のための食品交換表」準拠—
- 6) 「食品交換表」の翻案・二次利用について
 外食弁当等への「食品交換表」(「活用編」)及び「糖尿病腎症の食品交換表」を含む)の翻案・二次利用について, 委員会内にワーキンググループを組織し, その申請適格者・審査基準等運用について検討を継続する。

4. 「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長 石塚 達夫

委員会開催: 平成28年5月20日, 平成29年2月18日

本委員会が編集実務を行っている患者用書籍「糖尿病治療の手びき2017 (改訂第57版)」を平成29年5月に改訂発行する (今回の改訂版より書名に発行年を付し, 新しいものであることをアピールすることとした)。本書は, 平成28年5月に刊行された「糖尿病診療ガイドライン2016」, 新薬に関する情報など, 改訂第56版 (平成26年6月発行) 以降の「糖尿病診療の進歩」を反映させている。また, 本文は前版よりも一層コンパクトな記載とし, 図表もなるべく増やしビジュアルな紙面構成とした。また, 項

目名をすべて Question 形式に変更, 巻末に Q&A を新たに設置するなどの変更を行った。

「糖尿病療養指導の手びき (改訂第5版)」については平成30年5月の刊行を目標とし, 一部は医療スタッフに執筆依頼を行うことも検討して改訂作業を進めていく。

「糖尿病治療の手びき」「糖尿病療養指導の手びき」とも売上部数が減少傾向にあることから, 両書活用促進のための啓発・宣伝活動が重要であり, 本学会年次学術集会/糖尿病学の進歩, 日本糖尿病協会学術集会において関連するセッション開催を要望すること, 本学会ホームページおよび「糖尿病 News」を活用することを検討していく。本年, 糖尿病学の進歩で, 「糖尿病療養指導の手びき」をどう活用するのかについて説明することができた。

5. 小児糖尿病委員会 委員長 浦上 達彦

- 1) 「小児・思春期1型糖尿病の診療ガイド (日本糖尿病学会・日本小児内分泌学会編・著)」の作成が完了した。平成29年5月の日本糖尿病学会第60回年次学術集会での刊行予定である。
- 2) 小児科医の日本糖尿病学会会員の増加・糖尿病専門医の育成について
 「小児科を基盤とする糖尿病専門医・研修指導医増加のための暫定措置 (案)」が理事会で協議され, より小児科医が糖尿病専門医を受験しやすい環境づくりが進められており, 小児科の専門医の増加が期待される。
- 3) 成人治療への移行 (トランジション) について
 日本小児科学会の「小児期発症慢性疾患の成人期への移行支援に関する提言」に基づく1型糖尿病における成人医療への移行の体制整備, 支援プログラムの検討について, 日本小児内分泌学会移行期委員会より日本糖尿病協会に協力を依頼し, 日本糖尿病協会理事会において, この協力依頼が了承された。
 日本糖尿病学会に対しては, 日本小児内分泌学会から書面にて改めて協力依頼・合同委員会の設置依頼を行う予定である。日本糖尿病学会の了承を得たうえで, 日本小児内分泌学会・日本糖尿病学会・日本糖尿病協会において合同委員会を組織することを検討することとした。
- 4) 平成30年10月1~3日に国際小児思春期糖尿病学会 ISPAD Science School (会場: 湘南国際村, 開催責任者 日本大学小児科 浦上達彦) を開催予定である。

6. 「糖尿病治療ガイド」編集委員会

委員長 稲垣 暢也

「糖尿病治療ガイド 2016-2017」が平成 28 年 6 月 1 日に刊行された。売上部数は 131,574 部である（平成 29 年 3 月 31 日時点）。

次改訂「糖尿病治療ガイド 2018-2019」の平成 30 年刊行に向け委員会を構成し、平成 29 年 2 月 16 日に委員会を開催した。引き続き改訂作業を進めていく予定である。

7. 「糖尿病学用語集」編集委員会

委員長 綿田 裕孝

1) 委員会を 4 回開催した（平成 28 年 5 月 21 日、8 月 11 日、9 月 22 日、平成 29 年 2 月 18 日）。

2) 第 4 版「糖尿病学用語集」編集委員会では、インターネット掲載を考慮し、第 3 版に掲載されている用語の中から重複する用語や不要な用語等の整理作業を行った。第 3 版までは印刷物であり、かつ辞典的意味合いもあったが、本版では掲載用語を糖尿病に直接関連のある用語に絞る方針で編集作業を行った。

3) 平成 27 年度までに一通りの用語整理作業および整理後用語の「日本医学会 分科会用語委員会」によるチェックを完了させており、本年度は医学会からのチェック結果を元に改めて採用用語の検討・整理作業を行った。

4) 検討結果の内、委員会で重要と考えるものについてはその内容について平成 28 年 11 月 23 日 定例理事会での承認を得た。またそれとあわせて「日本医学会 医学用語辞典」への用語追加収載/修正の提言を行い、医学会からの検討結果を待っている。

5) 構築した「糖尿病学用語集」公開前 Web サイトは学術評議員を対象として限定公開し、パブリックコメントを募集した。今後その内容を検討し、必要な反映を行ったうえで平成 29 年 5 月の公開を予定している。

8. 「糖尿病専門医研修ガイドブック」作成委員会

委員長 谷澤 幸生

平成 28 年 4 月に「改訂第 7 版」の執筆依頼を行った。平成 29 年 5 月出版に向けて作成委員による分担査読が終了し、執筆者に加筆・修正等を依頼した。5 月の第 60 回年次学術集会前に出版できる見通しである。

9. 「糖尿病診療ガイドライン 2019」策定に関する委員会

委員長 荒木 栄一

1) 「糖尿病診療ガイドライン 2016」が平成 28 年 6 月 1 日に刊行された。刊行とあわせて学会員専用ホームページ「My Page」で公開していた PDF 版（印刷不可）については、平成 28 年 12 月に本学会ホームページでの一般公開へと変更した。

2) 次版「糖尿病診療ガイドライン 2019」（平成 31 年 刊行予定）策定に向けて羽田勝計前委員長より委員長を引き継ぎ、以下の委員会を開催した。

▷平成 28 年 12 月 17 日

委員長（荒木）、野田 光彦 評価委員長、および各委員長補佐による会議

「策定に関する委員会」統括委員会 委員（案）の決定、その他委員会/委員構成の検討、スケジュールの確認等

▷平成 29 年 2 月 17 日 第 1 回統括委員会

策定委員/評価委員の検討および決定

3) 平成 29 年 4 月 14 日に第 1 回 策定委員会の開催を予定している。

4) 次版では、策定過程への患者・市民の参加を目的として、新たに日本糖尿病協会に外部評価委員として全体評価を依頼する予定である。

5) 平成 28 年版では CQ・Q 方式に変更したことなどにより前版より頁数が大幅に増加した（186 頁増、計 558 頁）ため、次版ではレイアウトおよび判型の検討・見直しを行い頁数の削減を図る予定である。

10. 英語版「糖尿病診療ガイドライン 2016」編集委員会

委員長 羽田 勝計

委員：荒木栄一、野田光彦、折笠秀樹、能登 洋、矢部大介、藤田征弘、後藤 温、近藤龍也

「糖尿病診療ガイドライン 2016」の発刊に伴い、英語版作成に着手した。委員長は、田嶋尚子前委員長から羽田勝計新委員長に交代することが平成 28 年 5 月の理事会において決定、承認された。委員構成は平成 28 年 11 月 23 日定例理事会で承認され、12 月 17 日に第 1 回委員会を開催した。ステートメントのみを翻訳することとし、翻訳業者に依頼し、これから委員によるレビューを行う。平成 29 年 12 月発行 Vol. 8-No. 4 または Vol. 9-No. 1（平成 30 年 3 月発行）の「Diabetology International」への投稿を考えている。

〈学術調査研究・教育に関する報告〉

11. 平成 29 年度坂口賞および学会賞に関する報告
理事 植木浩二郎

- 1) 坂口賞は、牧野英一会員、および芳野原会員に授与する。
- 2) 学会賞審査委員会（加来浩平委員長）を平成 29 年 1 月 21 日に開催し、各受賞者を選出した。
 - (1) 平成 29 年度ハーゲドーン賞 該当者なし
 - (2) リリー賞
 - i) 太田嗣人（金沢大学附属病院 内分泌代謝内科）
「免疫応答制御による糖脂質代謝調節機構の研究」
 - ii) 河盛 段（大阪大学大学院 医学系研究科内分泌・代謝内科学）
「糖尿病におけるインスリン・グルカゴン分泌障害メカニズムの解明」

12. 学術調査研究・教育委員会

委員長 荒木 栄一

羽田勝計前委員長のもと、平成 28 年 5 月 7 日に委員会が開催された。1. 第 2 回若手研究助成金審査過程から抽出された問題点とその解決策、2. 第 1 回助成者の報告と継続、3. 上記 1、2 に関し、理事会に諮るべき事項、4. 若手研究奨励賞規定の変更について、5. 医療スタッフ優秀演題賞の規定についてそれぞれ検討した。また、本委員会担当理事の人数について、若手研究奨励賞の選考委員 2 名に加え、新設予定の医療スタッフ優秀演題賞の選考委員にも規定上 2 名を選出することになり、同じ年次学術集年内で口頭発表をそれぞれ審査する必要があることから、担当理事を 1 名増やすことを同年 5 月 18 日に開催の定例理事会において要望し、承認された。

同年 5 月 20 日に開催された臨時理事会において各理事の担当会務が決定され、学術調査研究・教育は、荒木栄一常務理事、井口登興志理事、内潟安子理事、戸邊一之理事、および前川聡理事の 5 人が担当することとなった。

第 7 回若手研究奨励賞の最終選考は、同選考委員会により選出された応募者の審査口演が第 60 回年次学術集会の 1 日目に行われ、翌日受賞者の発表・表彰が行われる。

第 1 回医療スタッフ優秀演題賞の最終選考は、同選考委員会により選出された応募者の審査口演および受賞者の発表・表彰が、それぞれ若手研究奨励賞と同日に行われる。最終選考の終了後に、第 1 回の選考過程で問題とされたことについて同選考委員会からの報告を頂き、本委員会ですその解消に向けての

検討を行う予定である。

また、平成 30 年に開催の第 61 回年次学術集会において、第 1 回若手研究助成金受賞者による研究報告が実施される。

13. 学術調査研究等倫理審査委員会

委員長 池上 博司

委員：稲垣暢也、内潟安子[○]、佐藤恵子^{*}、高本誠介^{*}、山田雅康^{**}

事前審査委員：大沼 裕、馬場谷成

注)^{*}：外部委員、^{*}：弁護士、[○]：副委員長

平成 28 年度は下記 5 件の申請（新規 2 件、修正 2 件、期間延長 1 件）があった。持回り審議による審査にて問題点・修正点の指摘を行い、最終的にそれぞれ承認した。

- 1) 日本人 1 型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会の「抗ヒト PD-1/PD-L1 抗体投与後に発症する 1 型糖尿病に関する疫学調査」（新規）
- 2) 同委員会の「1 型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同研究」（修正）
- 3) 同委員会の「2 型糖尿病の経過中に GAD 抗体の陽転化をみた症例の臨床的特徴ならびに誘因に関する調査研究」（新規）
- 4) 同委員会の「劇症 1 型糖尿病における感染因子の検討」（期間延長）
- 5) インクレチン治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する臨床病理学的研究委員会（修正）

14. 年次学術集会運営委員会 委員長 荒木 栄一

平成 28 年 12 月 18 日に仙台市で委員会を開催し、山田祐一郎会長のもとで開催される第 62 回年次学術集会（平成 31 年開催）の会場候補施設の視察を行った。会場へのアクセス、会場の数や各会場の座席数などを確認し、本委員会として仙台市で開催することを承認した。なお、その時点で予定されている会場は概ね 2 か所に分かれてはいるものの、2 エリア間の移動はシャトルバスだけでなく、徒歩でも 15 分程度で移動可能な距離であることから、開催には差し支えないものとされた。

15. 「糖尿病学の進歩」運営委員会

委員長 荒木 栄一

羽田勝計前委員長のもと、平成 28 年 5 月 3 日に委員会が開催された。内潟世話人が第 50 回「糖尿病学の進歩」の開催報告を行った。平成 29 年 2 月 17 日、18 日に中村直登世話人のもと京都で開催される第 51 回「糖尿病学の進歩」のプログラム案について検

討した。その後、理事の担当会務の交代に伴い荒木栄一常務理事が委員長に就任し、新担当理事委員に交代後、メールによる持回り審議により、第51回「糖尿病学の進歩」のプログラム案について検討した。委員からはいくつかの意見が提示され、中村直登世話人との協議のうえでプログラムに取り入れられた。

16. 食事療法に関する委員会 委員長 宇都宮一典
平成29年2月18日、第51回糖尿病学の進歩の会期中に委員会を開催した。糖尿病学会・老年医学会合同委員会が作成した「高齢者糖尿病診療ガイドライン」の食事療法のドラフトについて意見交換を行い、目標体重ならびに総エネルギー摂取量の設定、栄養素配分などについて、一部改稿を求めることとした。石田均委員から、5月の出版を予定している「カーボカウントの手びき」のドラフトについて内容の説明があり、意見交換を行い、概ねこれを認めることとした。

現在、糖尿病に関連する多くの学会でガイドラインの改訂作業がなされており、食事療法についてかなりの頁が割り振られているが、各学会が関心をもつ病態が異なることから、統一性を欠くきらいのあることが否めない。そのコンセンサスを形成する目的で、関連学会に食事療法ガイドライン策定責任者の推挙を依頼し、第60回年次学術集会で食事療法に関する合同シンポジウムを企画した。

17. 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会 委員長 難波 光義
Committee on the standardization of diabetes-related laboratory testing

委員：伊藤博史、及川真一、笹原誉之、三家登喜夫、武井 泉、西尾善彦、富永真琴、柱本 満、村上正巳、山門 實

平成28年10月1日から平成29年3月31日には開催されていない。

インスリンアッセイの標準化と負荷試験用標準食の開発については、前者では質量分析計を用いる以外に、真に正確な定量法が未だにないという技術的課題があること、後者ではその開発に本委員会と協力できる企業が現状見当たらないことから、進捗していない。

一方、血漿中グルカゴン (1-29)、いわゆる膵グルカゴン値の測定法については、2種の抗体を用いるサンドイッチ法によるELISA法がその定量性においてかなり信頼できるという報告があるため、本委員会の委員のうち難波光義、三家登喜夫に、糖尿病

学会員でグルカゴン研究の専門家の先生方など（北村忠弘、石原寿光、柴輝男、長坂昌一郎）を加えてAd hocのタスクフォースを結成し、健常人と2型糖尿病患者に対するブドウ糖および食事負荷試験における血漿グルカゴン測定値に関する検証を開始した。

18. アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会 委員長 中村 二郎
委員：羽田勝計、稲垣暢也、谷澤幸生、荒木栄一、植木浩二郎、中山健夫、神谷英紀

2001-2010年における日本人糖尿病患者45,711症例の死因等に関する解析結果が、委員会報告として雑誌「糖尿病」9月号(2016)に掲載された。また、2017年3月27日にSpecial ReportとしてJournal of Diabetes Investigationに、2017年3月28日にREPORT OF THE COMMITTEEとしてDiabetology Internationalに掲載された。

次期調査に向けて、新たな委員会を開催する予定である。

19. 日本人1型糖尿病の成因、診断、病態、治療に関する調査研究委員会

共同委員長：花房 俊昭

共同委員長：小林 哲郎

1) 劇症および急性発症1型糖尿病分科会(委員長：花房俊昭)

「劇症1型糖尿病のMRI所見」についての論文は投稿中である。これとは別に、委員会報告を作成中である。「劇症1型糖尿病例のアミラーゼ自己抗体の発症後の推移」については調査継続中である。「抗ヒトPD-1/PD-L1抗体投与後に発症する1型糖尿病に関する疫学調査」の調査が開始され、年次学術集会で中間報告を予定している。

2) 緩徐進行1型糖尿病分科会(委員長：小林哲郎)

共同研究「GAD抗体陽性にも関わらず進行のみられない緩徐進行1型糖尿病例」が、Yasui J et al., PLoS One. 2016 May 13; 11(5): e0155643に掲載された。「2型糖尿病の経過の途中から1型が発症した例」がOikawa Y et al., Diabetology Internationalにacceptされた。「GAD抗体キット問題」に関し、ひき続きその感度、特異度、臨床的意義につき、委員会として検討して行く。

3) 遺伝子解析チーム(チームリーダー：池上博司)

日本人1型糖尿病の体質を明らかにして、診断・予防・治療に資する情報を得ることを目的に、3つのサブタイプ(急性発症、劇症、緩徐進行)の疾患感受性遺伝子解析の網羅的解析を進めている。劇症1型糖尿病を対象に施行したGWAS

でゲノムワイド有意水準をクリアした領域内にある2つの候補遺伝子のシーケンスを完了し、遺伝子発現への影響を確認、現在論文執筆中である。

20. 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会

委員長 難波 光義

委員：渥美義仁，佐藤 譲，岩倉敏夫，松久宗英，
西村理明，赤澤宏平，山内敏正

「糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査研究」の進捗状況は以下の通りである。

- 1) 平成27年7月24日に認定教育施設631施設へ依頼状を送し、調査への参加を依頼した。
- 2) 参加を表明した施設には、倫理審査に必要な書類を送付し、各施設で倫理審査委員会にお諮り頂き、Web登録システムを利用してデータ登録を依頼した。
- 3) 調査は、施設の実態調査（施設データ）と個々の症例に関する調査（症例データ）で、平成28年6月30日を締切として依頼し、施設データ：193施設/症例データ：800症例の登録があった。
- 4) 調査結果について、第51回「糖尿病学の進歩」にて委員会報告としての発表を行った。第60回年次学術集会でも同様の発表を行う予定である。また、学会誌「糖尿病」「Diabetology International」への投稿に向けて準備を進めている。

21. 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長 稲垣 暢也

委員：栗田卓也，今川彰久，岩本安彦，島田 朗，
鈴木敦詞，馬場園哲也，藤倉純二，脇 嘉代，
以下2名は日本膵・膵島移植研究会より 穴澤貴行，剣持 敬

本委員会が昨年提案した、①膵臓移植のレシピエント適応基準において、血糖の不安定性を評価するのは膵臓単独移植のみであること、また、要綱の表現を先述の内容が明確になるように変更すること、②血糖の不安定性の評価のために、48時間以上のCGMの結果を申請時に求めること、の2点が、平成28年9月29日に開催された膵臓移植中央調整委員会において承認された。

また、膵臓移植中央調整委員会より依頼された、膵臓移植待機患者のデータ解析について、データベースが完成した。今後、データ解析を進め膵臓移植の待機患者の状況を検証する予定である。

22. インクレチン薬治療のヒト膵腫瘍発生リスクに関する（臨床病理学的研究）調査委員会

委員長 八木橋操六

委員：稲垣暢也，植木浩二郎，寺内康夫，水上浩哉，
綿田裕孝

研究協力者：藤井丈士，近藤しおり，中路重之

本学会調査研究倫理要綱の改正に伴い改変版調査研究計画申請書を提出し、平成28年3月30日付けで研究実施についての承認を得た（日糖倫理平27-002号）。検索対象を全国多施設からランダムに求めること、また症例数を増加させる目的より、全国の日本糖尿病学会認定教育施設に、過去6年間に遡ってのインクレチン関連薬治療中での死亡例の有無のアンケート調査を実施した。671施設に送付、245施設より回答が得られた（37%）。うち93施設（13.8%）においてインクレチン関連薬治療中の死亡例が報告された。その中の56施設（8.3%）にて病理解剖が行われていた。過去6年間での死亡例総数は数千に及ぶが、剖検実施に至った例は記録上約350例であった。アンケート協力施設に膵病理変化についての検索が可能か否かの二次調査を実施し、検索対象の増加を図った。その結果、15施設より膵標本提供の回答が得られ、現在計40例の膵標本（未染色プレパラート）が集められた。現在、得られた標本保存状態の検討とともに、膵重量、病理所見、膵内分泌細胞容積、外分泌増殖病変の有無について検討中である。

〈学会認定事業に関する報告〉

23. 専門医認定委員会 委員長 谷澤 幸生

委員会は7回開催された。平成28年度の専門医試験は391名が申請。書類審査を経て381名が筆記・面接試験を受験し269名（受験申請者合格率69%）が合格した。研修指導医の新規申請は191名（随時申請も含む）、認定教育施設Ⅰ30施設、認定教育施設Ⅱ5施設、教育関連施設20施設、連携教育施設（小児科）5施設が認定された。専門医の更新辞退28名、資格停止32名、資格喪失4名、研修指導医更新辞退12名、資格停止3名、資格喪失2名であり、平成29年4月現在の専門医数は5,510名、研修指導医1,918名、認定教育施設Ⅰ684施設、認定教育施設Ⅱ26施設、認定教育施設Ⅲ7施設、教育関連施設63施設、連携教育施設（小児科）25施設である。

専門医試験の結果を受け、専門医試験委員会との合同WGを開催した。

今年度から専門医更新は必須症例（1型糖尿病か強化インスリン療法例、増殖前網膜症以上に進展した網膜症合併例、3期以上の腎症合併例）を1例ず

つ提出が求められている。産業医の職にある専門医で提出が困難な場合、必須症例の提出ができるまで資格停止とし来年度以降も引き続き協議することとなった。

専門医制度規則の改訂を次の通り行った。新内科専門医制度でサブスペシャリティ専門医の並行研修が可能になったため第2条2および第7条3を改訂することとなった。

研修指導医の認定に関して、研修指導医申請の業績要件を下記①②に変更した。但し、当分の間、糖尿病専門医取得前のものも含めて、糖尿病臨床に関わる筆頭者としての論文発表、または学会発表を合計して5編以上（このうち少なくとも1編は論文発表）有している場合も①②に代わる業績として認め、平成28年度の申請から運用することとなった。

①「筆頭著者（first author）」として糖尿病臨床に関わる研究論文（症例報告含む）を発表していること。または学位（医学博士またはそれに相当するもの）を有していること。

②糖尿病専門医取得後に、「筆頭著者（first author）」もしくは「責任著者（corresponding author）」として発表した糖尿病臨床に関わる論文、または筆頭者として発表もしくは医師である筆頭発表者に対して指導をした糖尿病臨床に関わる学会発表を、合計して3編以上有していること。筆頭発表者に指導をしたことの証明は、所定の証明書を添付すること。筆頭発表者に指導をした学会発表として申請ができるのは、1編の発表につき1名のみとする。

連携教育施設（小児科）に関する特例認定規定の期間が平成30年度で終了するため5年後の平成35年度まで延長することとなった。また小児科領域の糖尿病専門医および研修指導医を更に増加させる対策として、新たに内科とは別の申請要件の特例規則を定めるため検討を行っている。

新専門医制度に関して、基本領域の新内科専門医制度が開始された1年後にサブスペシャリティ専門医制度を開始できる「サブスペシャリティ重点研修タイプ（1年型・2年型）」に加えて「内科・サブスペシャリティ混合タイプ」が新たに設けられた。糖尿病研修プログラム作成WGにて作成した専門研修プログラム整備基準（案）を日本内科学会に提出した。

24. 専門医試験委員会 委員長 宇都宮一典

平成28年5月21日、第45回専門医試験委員会が開催され、第27回糖尿病専門医試験にむけて、試験方法と出題問題の作成分担、口頭試験担当者、試験

監督担当者を決めた。

8月28日に委員長ならびに数名の委員が、提出された試験問題のチェックを行った。平成26年度より、選択問題・論述問題それぞれに小児科用問題を設けることとし、今年度は4名の小児科の試験委員により問題が作成された。論述問題について今年度は全ての問題を内科と小児科と分けて出題することとした。9月25日に委員全員で試験問題の選定が行われた。

第27回専門医試験は、平成28年10月23日に都市センターホテルにおいて実施した。

受験者は381名で、11月13日に合否判定案を作成、11月20日に専門医認定委員会に報告、269名の合格者（試験での合格率71%）が確定した。今年度も希望のあった受験者に対し成績の開示を行った。小児科では10名が受験し、7名の合格（試験での合格率70%）が確定した。

第28回（平成29年度）の試験は10月22日 都市センターホテルにて、第29回（平成30年度）の試験は10月28日 パシフィコ横浜にて実施を予定している。

〈その他学会活動に関する報告〉

25. 選挙管理委員会 委員長 谷澤 幸生
委員：三木隆幸、檜尾好徳、佐々木敬、榊原文彦、
絵本正憲、松久宗英、水流添寛

例年同様、本委員会は郵便、e-mail等を利用して委員会活動を進めていくこととし、従来の申し合わせに従い、理事会推薦の谷澤幸生委員を委員長とし、以下の事項を確認した。29年度「会長選挙」の手順は前年度の「会長選挙手順」を踏襲し、

- 1) 支部からの推薦締切日は平成28年11月7日とする。
- 2) 推薦された方の意思確認は11月13日までに事務局必着とする。
- 3) 理事長への報告は11月18日までに行う。
- 4) 11月23日の定例理事会で、最終候補者3名を決定する。
- 5) 候補者の所信のフォーマットは前年度と同様とし、平成29年1月10日を締切日とする。

平成29年3月5日に委員会を開催し、以降の進め方について協議検討した。

- 1) 会長選出手順およびこれまでの手順についてそれぞれ確認した。
- 2) 所信の確認

3名の候補者から提出された所信について、内容、印刷の字体や文字数、行間隔などを検討し、

本人への指摘事項を決定した。

3) 今後の手順について

所信の手直し終了後に、規則に則り従来の形で理事長への報告、会員への周知、学術評議員への所信の送付等を行うことが確認された。学術評議員のうち、メールマガジンでの送付が可能な方へは、メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し、閲覧を促すこととした。また、学術評議員会で配布する資料に所信を掲載することとした。

4) 学術評議員会での投票手順の確認について

- (1) 開票作業には、会長候補者のいない支部の出席委員と、候補者のいない支部から委員長が指名した者、委員長を含めて最大9名であたる。今回は北海道支部、東北支部、中国・四国支部、および九州支部所属の出席者から、4名に依頼する。
- (2) 投票用紙配布直前に会場を閉鎖し、回収後開放する。このことは、学術評議員へ候補者の所信を通知する際に記載する。
- (3) 今回も候補者名を予め投票用紙に記載し、所定の欄に丸印を付したものを有効とする。
- (4) 最多得票者に決定する。同数の場合は学会入会年月の早い者とする。
- (5) 各候補者の得票数は公表する。
- (6) 迅速に開票作業を行うため、投票用紙を折り曲げて投票する場合は「横二つ折りまで」とすることを注意事項として通達する。

以上は、議場で予め公表する。

26. 将来計画委員会 委員長 荒木 栄一

今年度、委員会は開催されなかった。次年度は、これまでの提言の実現状況の確認や、新5ヵ年計画の実現に向けて検討を行う予定である。

27. 定款・細則検討委員会 委員長 羽田 勝計

委員：渥美義仁、稲垣暢也、井口登與志、植木浩二郎、大澤春彦、寺内康夫、中村二郎、山田祐一郎、(事務局：山田雅康弁護士、久保まゆみ会計士)

本年度は定款、細則ともに変更がなく委員会は開催していない。

28. 女性糖尿病医を promote する委員会

委員長 成瀬 桂子

平成28年4月10日、平成29年1月22日の2回、委員会を開催した。平成28年11月23日 定例理事会・平成29年4月15日 臨時理事会での承認を経

て、一部委員の入替えを行った。

1) 「女性糖尿病医サポートの取り組み」Webサイト(学会ホームページ内)について

・女性糖尿病医の声を掲載する「キラリ☆女性医師！」に9名の原稿を掲載した(平成27年4月からの累計：21名)。また、新コーナーとして「キラリ☆女性医師！特別版—イクボス・イクメンからのひとこと」を計画しており、準備を進めている。「女性糖尿病医のフロンタナー」についても新記事掲載のための準備を進めている。

・年次学術集会/糖尿病学の進歩/各支部地方会で行われた関連講演については、講演動画・スライドを適宜「女性医師応援ライブラリ」コーナーに掲載(一部掲載準備中)している。

・ホームページの更新情報は、本委員会からの学会員宛メールマガジンとしての不定期配信/外部ニュースサイトでの告知記事掲載を継続して行っている。

2) 学術集会について/糖尿病学の進歩/各支部地方会等について

・第59回年次学術集会では、本委員会関連シンポジウムとして「ジェンダーギャップを克服する～他分野(京都大学・産婦人科学会・JAXA・厚生労働省・資生堂)の取り組みから考える～」を企画した。また、ニュースレターを作成・配布し、委員会活動の周知に努めた。

・第51回糖尿病学の進歩/平成28年度 各支部地方会に託児所の充実/女性座長数の増加について要望書を提出し、すべての実績を収集した(【託児所利用者】第59回年次学術集会：63名、第51回進歩：34名、平成28年度地方会平均：10名/【女性医師座長数割合】第59回年次学術集会：17.1%、第51回進歩：3.5%、平成28年度地方会 平均：21.5%)。平成28年度は、すべての関連学会において託児所が設置された。第60回年次学術集会にも同様の要望書を提出している。

・本委員会と日本医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」との共催企画として、第54回九州地方会ならびに第54回中国四国地方会においてワークショップ「輝け！女性糖尿病医」を開催した。

3) 女性医師が出産・育児などの休職期間があるため、若手表彰や若手助成の年齢制限を超えてしまい応募できない場合がある現状を踏まえ、リリー賞の年齢制限の引き上げ、および若手研究奨励賞・若手研究助成について大学卒業後10年以内に

産前産後休業・育児休業を取得している場合には当該期間分を「大学卒後10年」からの延長を認めて頂くよう要望書を提出した。

- 4) 平成29年度に学術評議員を対象としたアンケート調査を予定している。また、より多くの女性研究者が糖尿病研究を継続し、キャリアアップするためのロールモデルとなる女性研究者に対して、女性研究者賞の創設を予定している。

29. 広報委員会 委員長 植木浩二郎
委員：安孫子亜津子、石原寿光、黒田暁生、鈴木厚、寺内康夫、中神朋子、西川武志、西村理明、矢部大介、山田哲也、(小児科分野)菊池透

委員会開催：1回(平成28年7月18日)

＜小児科分野の委員追加について＞

- ・平成28年11月23日 定例理事会での承認を経て、菊池透委員(埼玉医科大学小児科)が就任した。

＜「禁煙宣言」について＞

- ・平成28年10月12日 本学会ホームページに掲載した。
- ・ホームページへの掲載とあわせて、本学会 会員へのアンケート：「禁煙宣言」に関する実態調査を「My Page」内にて実施した(回答期間：平成28年10月12日～31日)。

＜ホームページ改訂について＞

- ・本学会ホームページ(www.jds.or.jp)について、前回のリニューアルから4年が経過していることと、掲載情報量の増加もあり、ページ構成・レイアウト・デザインについて再考の必要性が出てきたため、検討を行った。
- ・検討の結果、段階的にリニューアルを実施することとし、第一段階として「TOPページのレイアウト変更(お知らせ表示領域・各種リンクバナー表示領域の配置変更)」を行った(平成28年10月)。第二段階の全面リニューアルを平成29年度内に完了・公開することを目標とし、引き続き検討を進めている。

30. 利益相反委員会 委員長 植木浩二郎
委員：井口登興志、岩崎直子、古家大祐、寺内康夫、前川 聡、山根公則、山田雅康(顧問弁護士)
平成28年4月に日本内科学会が公表した「内科系関連11学会共通医学系研究の利益相反(COI)に関する指針」一部改正に伴い本学会も改正を行った。学会ホームページに掲載している共通指針、開示スライド例および各種COIフォームを更新した。また、「糖尿病 News」2016年-No.3(7月30日発行)

にも通知記事を掲載した。

31. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会

委員長 渥美 義仁

医療費抑制の中、平成28年診療報酬改定に向け独自ならびに共同で提案した中で、糖尿病関連で実現したのは、①人工臓臓を用いた人工臓臓療法(J043-6:3,500点/日)、②在宅妊娠糖尿病患者指導管理料対象者への血糖自己測定器加算、③人工透析患者に対する下肢末梢動脈疾患指導管理加算(100点/月：日本下肢救済・足病学会主導)、などである。人工臓臓療法は、周術期、高血糖救急などを目的に、世界で唯一のわが国の人工臓臓が3日を限度に算定可能となった。従来の人工臓臓を用いたクランプ中心の検査は人工臓臓検査(D231)として変更はない。人工臓臓の施設基準が不合理である点に関して、厚生労働省に要望してきたが改訂されないので、学会としての要望を予定している。妊娠中の糖尿病患者またはハイリスクな妊娠糖尿病患者に対する血糖自己測定器加算が認められたことにより、妊婦の経済的負担が軽減された。透析施設での算定であるが下肢末梢動脈疾患のケアが認められたことは、足切断リスクの最も高い糖尿病透析患者の下肢救済につながる。

平成30年改訂に関しては、未収載として、①連続グルコース測定など増大するデータを整理解析しチームでの指導にいかすCDEJの役割を評価、②入院糖尿病患者に対する糖尿病診療医のコンサルテーション負荷の評価、既収載として、①CGMの施設要件緩和、②IA2検査の年齢制限撤廃、③人工臓臓の施設基準改定、④入院患者対象のCGMセンサーの算定を要望している。

＜対外的活動に関する報告＞

32. 国際交流に関する報告 委員長 稲垣 暢也

1) 国際糖尿病連合(IDF)関連

2016年10月27日～30日に台北にて開催された11th IDF-WPR Congress 2016の会期中に、IDF-WPR Executive Board MeetingおよびIDF-WPR Council Meetingが開催された。

出席者

・IDF-WPR Executive Board Meeting：門脇 孝

・IDF-WPR Council Meeting：清野 裕、門脇 孝、堀田 饒、稲垣暢也、谷澤幸生、矢部大介

(1) IDF World Diabetes Congress, IDF-WPR Congress の開催

IDF World Diabetes Congress：

Abu Dhabi, UAE (2017 年 12 月)
Busan, Korea (2019 年)

IDF-WPR Congress :

Kuala Lumpur, Malaysia (2018 年 11 月,
10th AASD Scientific Meeting と同時開催)
※2020 年の開催地は, 2017 年 12 月, Abu
Dhabi で開催される Council meeting で選
挙

(2) IDF, IDF-WPR の事業

IDF-School of Diabetes, Blue circle voices,
Diabetes foot, Education modules について
概略の説明がされた.

(3) IDF, IDF-WPR の新規加盟団体

加盟申請のあった 3 団体のうち, Myanmar
Diabetes Association のみ加盟を許され, 他
の 2 団体は条件を満たさないことから加盟
は見送られた.

(4) IDF-WPR の収支報告

- ・ IDF 内の組織改革に伴い一時閉鎖された
各 region の事務局, 銀行口座について,
IDF から再開許可があり, 今後, 事務局
と銀行口座の設置国について議論を重ね
る.
- ・ IDF は各 region に毎年 30,000 ドルの分配
がなされる.
- ・ シンガポールで開催された IDF-WPR con-
gress の余剰金として SGD50,000 が IDF-
WPR に寄付された.

2) EASD 関連

2016 年 9 月 12 日~15 日にミュンヘンにて開催さ
れた EASD2016 の会期中に, JDS と EFSD の合
同協議を行った.

出席者

- ・ JDS : 植木浩二郎委員
- ・ EFSD : Prof. Ulf Smith

(1) East-West Forum

第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会
(2016 年, 京都) の会期中に第 5 回 East-West
Forum が開催されたことを確認し, 次回は
2017 の EASD のプログラムとして企画する
ことで同意した.

(2) 日欧交換留学プログラム

植木委員より, 資金集めに関する日本側の
事情が説明され, 双方, このプログラム及び
agreement に関する懸念点がないことを確
認し, 引き続きプログラムを実施することで
同意した. ただ, 今年度については例年より
半年ほどスケジュールが遅れていることを

考慮して募集を見送り, 2017 年 4 月から募
集を開始して, 同年 9 月の EASD 会期中に
選考することとした.

3) AASD 関連

(1) 開催報告 :

2016 年 10 月 28 日~30 日に台北にて, 8th
AASD Scientific Meeting が開催された. 開
催に先立ち, 前日 27 日には AASD-Execu-
tive Board Meeting が開催された.

- ・ 出席者 : 清野 裕, 堀田 饒, 門脇 孝,
稲垣暢也, 谷澤幸生, 矢部大介
また, 会期中, AASD Award の授賞式が
行われ次の 1 名が受賞した.
- ・ The Yutaka Seino Distinguished Leader-
ship Award : Hong Kyu Lee 先生 (韓国
Eulji University)
- ・ The Masato Kasuga Award for Outstand-
ing Scientific Achievement : 該当者なし
- ・ The Xiaoren Pan Distinguished Research
Award for Epidemiology of Diabetes in
Asia : 該当者なし

(2) 今後の開催予定 :

- ・ 9th AASD Scientific Meeting (2017 年 5 月
19 日~20 日, 名古屋, 中村二郎会長, 第
60 回日本糖尿病学会年次学術集会と同時
開催)
- ・ 10th AASD Scientific Meeting (2018 年 11
月, Kuala Lumpur, Malaysia, 12th IDF-
WPR Congress と同時開催)
- ・ 9th AASD Scientific Meeting 会期中に JDI
編集会議を予定する.

4) 日韓糖尿病フォーラム関連

(1) 第 3 回日韓糖尿病フォーラム

2017 年 5 月 11 日~13 日に韓国・釜山に
て, 第 3 回日韓糖尿病フォーラムが開催され
る.

(2) 第 4 回日韓糖尿病フォーラム

2019 年に第 62 回年次学術集会と合わせて
開催すべく, 2017 年 5 月 20 日 (第 60 回
年次学術集会会期中) に, 韓国側の代表者と日
本側の委員で会合を開催する.

33. 日本医学会に関する報告 評議員 植木浩二郎

日本医学会連合の定時総会が平成 28 年 6 月 17 日
に行われ, 平成 28 年度日本医学会連合事業計画及び
予算に関する報告があり, 平成 27 年度日本医学会連
合事業報告, および平成 28 年度日本医学会連合会費
徴収の 2 件の議題について承認可決された. 第 84 回

日本医学会定例評議員会が平成 29 年 2 月 17 日に開催された。

34. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

理事長 門脇 孝

平成 28 年 10 月 24 日に日本糖尿病対策推進会議常任幹事会が日本医師会において開催された。本学会からは「糖尿病治療のエッセンス 2017 年版」の進捗状況を報告し、また、糖尿病性腎症重症化予防プログラム開発のための研究について報告し、医師会および日本糖尿病対策推進会議の協力を要請した。

1) 「対糖尿病戦略 5 ヶ年計画」作成委員会

委員長 綿田 裕孝

理事および担当会務の変更に伴い、本委員会の委員長が植木浩二郎委員長から綿田裕孝委員長に交代することが平成 28 年 5 月 18 日の定例理事会で決定された。これに伴い、委員を交代することとなり、現在後任の委員を選任中である。

2) 「健康日本 21」の糖尿病対策検討委員会

委員長 荒木 栄一

(1) 委員会開催：

糖尿病対策検討委員会の開催はなし。

糖尿病治療のエッセンス改訂 WG 委員会を平成 28 年 5 月 29 日に開催した。

(2) 委員会活動

今回から年次学術集会のプログラムの一つとして組み込まれることとなった、糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議が、第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会の第 3 日目となる平成 28 年 5 月 21 日に国立京都国際会館 1F Room E にて開催された。日本糖尿病対策推進会議の幹事会活動と今後の方針について報告がなされた。次いで井口登典委員長と吉岡成人委員の司会で、山口県の矢賀健先生、和歌山県の佐々木秀行先生、山形県の間中英夫先生から各県内での活動報告がなされ、それぞれの地域での問題点や今後の方向性が討議された。また、今回新たに「2 型糖尿病患者に対する自己管理支援 ICT システム—Dial Betics」をテーマに脇嘉代先生が、「糖尿病コーディネート看護師活動による糖尿病重症化予防への効果」をテーマに古賀明美会員が講演した。一般参加者の聴講もあり、今まで以上に実りあるものとなった。

(3) 糖尿病治療のエッセンス改訂 WG 委員会

本委員会が制作を担当している日本糖尿病対策推進会議編の「糖尿病治療のエッセンス」の改訂のために昨年夏に設置された WG

委員会を、今期は平成 28 年 5 月 29 日に開催し、平成 28 年 5 月に発刊された「糖尿病診療ガイドライン 2016」ならびに「治療ガイド 2016-2017」との統一を図るよう検討した。日本糖尿病対策推進会議の意見および本学会理事の意見をふまえ、メールによる検討および校正を重ね、さらに門脇理事長からの校正も頂いたうえで平成 28 年 12 月に完成した。

「糖尿病治療のエッセンス 2017 年版」は「糖尿病 News」2017 年 -No. 1 とともに会員に配付された。今後、医師会や糖尿病学会のホームページに掲載するなど、広く活用を促したい。

3) 糖尿病データベースの構築委員会

委員長 植木浩二郎

日本糖尿病学会では現在、JDCP study と J-DREAMS という 2 つの大規模データベースを有している。JDCP study はベースラインの解析を終え論文化され、順次フォローアップの解析も論文化予定である。また、J-DREAMS は国立国際医療研究センターとの合同事業として現在 35 施設が参加し 25,000 名以上が既に登録され、今後施設数・登録患者数を拡大していく予定である。

(1) JDCP study 委員長 西村 理明

JDCP study は、対象とした 6,338 例を 8 年間追跡する観察研究である。平成 29 年 4 月末日現在、観察期間 3 年、5 年および 8 年の追跡率は、それぞれ、80.0%、69.1%、および 49.3% である。平成 30 年 3 月 31 日の期限までに研究を完了するよう、現在、追跡率の向上に努めている。

ベースラインの情報に関しては、1 型糖尿病ならびに 2 型糖尿病患者について「糖尿病」並びに「Diabetology International」誌に報告を行った。今期は、腎症 WG、神経障害 WG、網膜症 WG、運動療法 WG、食事療法 WG、歯周病 WG よりベースラインデータの報告を行う予定である。また、大血管 WG がイベント判定の結果に基づき生命表解析を行う予定である。

ご協力頂いた医療機関の諸先生、医療スタッフの方々に心から御礼を申し上げます。

(2) 診療録直結型全国糖尿病データベース事業 (J-DREAMS)

委員長 荒木 栄一

合同委員会

[日本糖尿病学会]

荒木栄一(委員長), 曾根博仁, 谷澤幸生,
矢部大介, 綿田裕孝(追加1名)

[国立国際医療研究センター]

植木浩二郎, 大杉 満, 大津 裕, 梶尾 裕
(代表), 杉山雄大, 美代賢吾

- ・委員長について, 羽田勝計 前委員長より交代した.
 - ・[国立国際医療研究センター] 側委員の増員(大杉満委員)に伴い, 本学会からも1名の増員を検討している.
 - ・昨年度に始動した診療録直結型全国糖尿病データベース事業「J-DREAMS (Japan Diabetes comprehensive database project based on an Advanced electronic Medical record System)」について, 平成28年8月26日時点で32施設が参加し, 25,181名が登録された. その後更に3施設が新規参加し, 合計35施設となっている. 今後も施設数と登録数を増やす予定.
 - ・収集されたデータの基本的な解析を進めるとともに, データ送信や解析がより容易に行えるようにシステム改修を行った.
 - ・「診療録直結型全国糖尿病データベース事業(J-DREAMS) 合同委員会規定」の策定と, 本学会と国立国際医療研究センターの「診療録直結型全国糖尿病データベース事業(J-DREAMS) 共同事業契約書」が締結された.
 - ・施設数拡大のために, 企業と医師主導臨床研究へのサポートあるいはスポンサーシップ契約などの形態での本事業へのサポートを打診している.
- 平成29年2月4日に, 昨年度と同様の「J-DREAMS」全参加施設を集めた全体会議を開催した.

35. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会 理事長 羽田 勝計

日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は, 第31回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を, 及川真一会長(複十字病院)の下, 平成28年10月7, 8日の2日間, 仙台国際センターにて開催した.

年次学術集会は, シンポジウム8題, 一般演題は例年通り全てワークショップ形式で行われた. 市民公開講座は10月8日に開催された. 本学会が設けた学会賞各賞の受賞者は以下の各先生で,

Outstanding Foreign Investigator Award は Lena Eliasson 先生 (Islet Cell Exocytosis, Lund University Diabetes Centre, SWEDEN), Distinguished Investigator Award は八木橋操六先生(弘前大学), Expert Investigator Award は伊藤裕先生(慶應義塾大学 腎臓内分泌代謝内科), Young Investigator Award は金沢一平先生(島根大学 内科学第一), 鈴木亮先生(東京大学 糖尿病・代謝内科), 野田航介先生(北海道大学 眼科学分野)に贈呈され, 受賞講演が行われた.

第32回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は, 石田均会長(杏林大学)の下, 平成29年10月27~29日の3日間, 京王プラザホテルにて開催されることが決定している. 学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め3回発行された.

36. 日本糖尿病協会委員会 担当理事 稲垣 暢也
今年度には, 本委員会の開催は行われなかった.

37. WHO ICD-11 内科分野内分泌作業部会

共同議長 田嶋 尚子

- 1) WHO による国際疾病分類である WHOICD-10 (平成2年作成) が世界各国で広く利用されてきたが, 近年の疾病構造や概念の変化や疾病分類の活用方法の多様化に対応するために, 平成19年から ICD-11 への改訂作業がすすめられてきた.
- 2) 平成28年10月8日~12日に WHO-FIC ネットワーク年次会議が東京で開催され, 今後の ICD 運営のための新たな組織が発表された. これまで改正作業を行ってきた各疾患別の TAG と working group は平成28年10月でその役割を終え, 医学・科学諮問委員会 (Medical and Scientific Advisory Committee ; MSAC) と分類・統計諮問委員会 (Classification and Statistics Advisory Committee ; CSAC) が新たに設置された. Dr. Chris Chute (John's Hopkins) と田嶋が MSAC の共同議長に任命された.
- 3) 国内では, 厚生労働省国際分類情報管理室の協力を得て, 国内 ICD-11 検討会が設置されることとなり, 委員に門脇孝先生, 安田和基先生, 田嶋が就任する.
- 4) ICD-11β 版は, 平成29年4月2日時点版(固定)が web 上に公開されている. 日本医学会から, 同月28日を期日とした意見収集の依頼状が各関連学会に送付された. 今後フィールド試験が行われる予定である. <http://apps.who.int/classifications/icd11/frozen-2017-04-02>
- 5) 糖尿病は第5章内分泌・栄養・代謝疾患の章に位

置し、基本分類項目には Type 1 DM, Type 2 DM, Malnutrition-related DM, DM other specified type, DM type unspecified と Acute complication of DM のみが列挙され、code があらかじめ付与されている。その他の合併症はそれぞれ臓器別の章におかれ、そこで付与された code を併記することになる。

新しい組織の機能や役割はまだ不確定の部分が多い。今後の動向を注意深く見守り、平成 30 年の ICD-11 完成にむけて、わが国における活用とその課題等について検討する必要がある。

〈合同委員会に関する報告〉

38. 糖尿病性腎症合同委員会 世話人 植木浩二郎
委員（糖尿病学会）：馬場園哲也，宇都宮一典，古家大祐，植木浩二郎*，綿田裕孝*

注）*：新任

糖尿病学会，腎臓学会共に委員の交代があり，平成 28 年 12 月 4 日に第 42 回糖尿病性腎症合同委員会が開催された。そこでは，腎症患者の診療について，腎臓専門医との連携についての糖尿病診療ガイドラインへの記載，糖尿病性腎症診療ガイドラインの作成の検討などが討議された。また，最近，古典的な糖尿病腎症とは異なり顕性アルブミン尿などを呈さずに腎機能が悪化する例も多く経験されるようになっており，海外では糖尿病患者の腎機能障害に対する病名として Diabetic Nephropathy にかわって Diabetic Kidney Disease (DKD) が用いられるようになってきていることから，我が国において科学的データに基づいた DKD 疾患概念の確立や治療法の検討を行っていくこととなった。ここでの議論もとして両学会を中心として AMED 研究「ICT を活用した Diabetic Kidney Disease の成因分類と糖尿病腎症重症化抑制法の構築」が平成 29 年度より開始された。また，両学会の討議により，DKD の日本語訳を「糖尿病性腎臓病」とすることとなった。

39. 臓器移植中央調整委員会/移植関係学会合同委員会/臓器移植関連学会協議会

1) 臓器移植中央調整委員会 委員長 岩本 安彦
日本糖尿病学会選出委員：栗田卓也，稲垣暢也，岩本安彦

平成 28 年 9 月 29 日と平成 29 年 3 月 10 日に委員会を開催した。主な活動は以下の通りである。

①平成 29 年 3 月 1 日現在の臓器移植希望者申請書類受付は 749 件，ネットワーク登録済みは 611 件（うち死体臓移植済み 285 件，生体臓移植 5 件，待機中死亡 54 件，取り消し 64 件），登録中は 203 件（うち

臓器同時移植 154 件，臓器単独移植 49 件）であることが報告された。②長崎大学の臓器移植実施施設新規認定につき，移植関係学会合同委員会での承認も得られたことが報告された。③移植希望者の待機（inactive）制度につき提案があり，厚生労働省と相談の上，進めていくこととした。④臓器移植レシピエント適応基準の「血糖の不安定性」について，臓器単独移植の申請においては血糖の不安定性を証明するため CGM データの提出を申請時の必須項目とするのが適当であることが改めて確認された。また，適応判定申請書の「血糖管理の不安定性の評価」については，臓器単独移植の対象者のみが評価の対象である旨を明記することとした。⑤臓器移植レシピエント適応基準・申請書の 3 か所「臓器移植の禁忌事項に関する情報②悪性腫瘍の既往の有無」，「網膜症の評価」，「呼吸機能検査と動脈血ガス分析」について一部，現在の申請状況にみあうよう改訂をした。⑥臓器移植実施施設の更新について持ち回り審議を行ったが，現行の基準に照らすと基準を満たさない施設が存在している状況を受けて，実務者委員会において基準自体を見直し新基準が策定された。新基準での再審査の結果，18 施設全ての更新が認定された。新基準では更新期間が 3 年から 5 年に変更となり，更新時期は平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までとする。更新施設認定証の作成，発行作業を進めている。

2) 移植関係学会合同委員会

委員 稲垣暢也，岩本 安彦

持ち回り審議にて，下記施設の認定が承認された。

①第 34 回移植関係学会合同委員会（平成 28 年 8 月 29 日付け）

福島県立医科大学（肝臓移植実施施設），長崎大学大学院（臓器移植実施施設）

②第 35 回移植関係学会合同委員会（平成 28 年 12 月 13 日付け）

名古屋大学医学部附属病院（成人（11 歳以上）心臓移植実施施設）

3) 臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会 世話人 岩本安彦

平成 28 年度は開催していない。

40. 糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長 谷澤 幸生

1) 委員会開催：2 回（平成 28 年 5 月 21 日，11 月 22 日）

2) 以下を開催した。

▽第 59 回年次学術集会合同シンポジウム「糖尿病における PHR（Personal Health Record）～生

活習慣病手帳やお薬手帳の電子化と活用～」(平成 28 年 5 月 20 日)

▽第 36 回医療情報学連合大会 共同企画
「J-DREAMS などの疾患コホート研究の意義
と医療情報部門の役割」(平成 28 年 11 月 22 日)

- 3) 第 60 回年次学術集会でのシンポジウム「IoT (モノのインターネット) と糖尿病」, 第 37 回医療情報学連合大会 (平成 29 年 11 月 20 日～23 日) での共同企画について準備を進めている。
- 4) 本合同委員会より派生した「6 臨床学会拡大会議 (日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会/日本臨床検査医学会 + 日本医療情報学会)」を 3 回 (平成 28 年 8 月 18 日, 11 月 22 日, 平成 29 年 3 月 9 日) に開催し, 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) の平成 28 年度公募事業「パーソナル・ヘルス・レコード (PHR) 利活用研究事業」に「生活習慣病重症化予防 PHR モデルに関する研究」(代表機関: 医療情報システム開発センター [MEDIS-DC]) が採択されたことについて情報共有および協議を行なっている。
- 5) 平成 26 年度に承認された以下研究課題への「研究協力および連携」につき, 当該研究課題が平成 27 年度厚生労働科学研究費補助金の交付課題として採択されたため, 今後実際に協力を行っていく予定としている。

■研究課題:

満武巨裕先生 (一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構)
「レセプト情報・特定健診等情報データベースを利用した医療需要の把握・整理・予測分析および超高速レセプトビッグデータ解析基盤の整備」

41. 糖尿病と癌に関する合同委員会

代表委員 植木浩二郎

委員: 綿田裕孝, 田嶋尚子, 野田光彦, 大橋 健

- 1) 春日雅人委員から綿田裕孝委員への委員交代が行われた。
- 2) がん治療認定医 (関東圏のみ) と糖尿病専門医を対象に実施する予定の「がん治療中の糖尿病管理に関する調査」について, 調査内容の最終案を作成中である。

42. 日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表委員 荒木 栄一

委員: 春日雅人, 島野 仁, 井上 啓, 綿田裕孝, 窪田直人

平成 28 年 7 月 16 日に第 3 回肝臓と糖尿病・代謝研究会が金沢にて開催された (事務局担当: 日本肝臓学会)。参加者数は 416 名で, シンポジウム (5 演題), ワークショップ 2 つ (計 10 演題), ランチョンセミナー (2 演題), 一般演題 (口演 21 演題, ポスター 61 演題) が行われた。特別講演では Gerald I. Shulman 教授による「The role of hepatic lipids in hepatic insulin resistance and type 2 diabetes」, Steven Kliewer 教授による「Regulation of Behavior and Metabolism by the Liver Hormone FGF21」が行われた。YIA 受賞者は 5 名で, ワークショップにて口演発表が行われた。

また, 平成 28 年 10 月 22 日に, 第 4 回研究会に關する打ち合わせを行い, 以下の結論に至った。1) 第 4 回研究会は, 平成 29 年 5 月 20 日開催予定とし (会長: 愛知医科大学 中村二郎先生, 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会最終日), テーマは「旧くて新しい糖尿病と肝臓の仲」とする。2) シンポジウム, 特別講演, 一般演題 (口頭, ポスター討論) の他, 共同研究の中間報告を行う。3) 参加費, YIA, 専門医制度認定単位等は, 第 1～3 回研究会と同様とする。4) 一般演題の募集期間は, 平成 28 年 10 月 17 日～11 月 28 日とする。5) 一般演題登録時には日本糖尿病学会の指針に従って, 発表分類が「臨床研究, 疫学調査」の場合, 倫理教育の受講を必須とする。受講していない場合は演題登録画面において教育ビデオの閲覧を義務付ける。打ち合わせでは, AMED 研究課題「糖尿病患者における肝細胞癌発生の実態把握とその分子機構」の進捗報告もなされた。J-DREAMS のデータの活用についても検討することとした。

その後の AMED 研究の進捗状況は, 以下の通りである。

平成 28 年 10 月付けで倫理審査を通過, 同年 12 月に WEB 登録システムの構築を終了し, 平成 29 年 1 月初旬に糖尿病学会と肝臓学会の双方で認定された教育認定施設 (総計 333 施設) に対し, 研究参加同意依頼を開始した。平成 29 年 3 月 10 日までに同意を得られた施設数は, 糖尿病学会側で 36 施設, 肝臓学会側で 84 施設にとどまったため, 平成 29 年 3 月 21 日より再度参加同意依頼書を送付し, 本研究への参加を促している。

今後の予定:

- 臨床研究については, 症例登録とデータ入力期限を最大平成 29 年 9 月としており, 収集したデータの解析は平成 29 年 12 月までに終了の予定。
- 基礎研究については, 各 5 種類のモデルマウスを用いた検討を並列で行うことで平成 29 年 9 月まで

の終了を目指す。

- これらの研究結果をもとに論文投稿を予定している。また、日本糖尿病学会、日本肝臓学会およびその関連学会での報告も予定している。

43. 日本糖尿病・妊娠学会と日本糖尿病学会の合同委員会

代表委員 荒木 栄一
糖尿病・妊娠学会の委員：平松祐司（代表委員）、安日一郎、難波光義、内潟安子

糖尿病学会の委員：荒木栄一（代表委員）、植木浩二郎、田中 逸、綿田裕孝

平成 28 年 5 月の理事および会務の交代をふまえて、本学会の委員 4 名のうち、羽田勝計委員と渥美義仁委員が退任され、荒木栄一委員と田中逸委員が新委員に就任した。

44. 高齢者糖尿病の診療向上のための日本糖尿病学会と日本老年医学会の合同委員会

委員 羽田 勝計
本年度、「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」の策定を終了し、「糖尿病診療ガイドライン 2016」および「糖尿病治療ガイド 2016-2017」に掲載頂いた。その英語版の策定も終了し、委員会報告として DI, JDI, GGI に掲載頂いた。

さらに、「高齢者糖尿病診療ガイドライン 2017」を策定し、第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会で公表する予定である。また、「高齢者糖尿病治療ガイド」は、平成 30 年開催の第 52 回「糖尿病学の進歩」時に公表することを目標に、策定作業を進めている。

〈その他の報告〉

45. 日本糖尿病学会設立 60 周年記念事業

理事長 門脇 孝
平成 29 年 12 月 15 日に行う 60 周年記念事業について、平成 28 年 5 月 20 日の理事改選に伴い、新常務理事が決定したため、役割分担を以下の通りとした。

	主担当	副担当	
実行委員長	門脇 孝		(理事長)
準備委員長	植木浩二郎		(庶務担当)
財務	谷澤 幸生	中村 二郎	(会計担当)
出版	荒木 栄一	谷澤 幸生	(編集担当)
シンポジウム	羽田 勝計	荒木 栄一	(学術調査研究・教育担当)
国際（式典）	稲垣 暢也		(国際交流担当)

記念シンポジウム、記念式典、祝賀会のプログラ

ム構成案、招待者、参加費および広報時期について、平成 29 年 2 月 16 日臨時理事会で承認された。記念講演は葛谷健名誉会員にお願いをすることとした。参加費は、招待者、来賓者、登壇者、名誉会員、賛助会員、功労評議員は無料とし、評議員、一般会員からはレジメ代としてシンポジウムでは 2,000 円、祝賀会は 6,000 円を徴収することとした。来賓、関連学会や登壇者への案内時期は、理事長が作成した趣意書を添付し 4 月中に依頼を行う予定で準備を進めている。また、名誉会員、功労学術評議員、賛助会員への案内は 5 月（第 60 回年次学術集会終了後）の発送とする。今後、学会員への案内は 4 月上旬に学会ホームページ、4 月 30 日発行「糖尿病 News」に掲載、参加申込などの詳細については随時ホームページで案内をしていく予定である。また、当日の服装は平服とし、記念シンポジウム参加による専門医更新単位として 3 単位付与される。

記念誌は、「学会創立 60 周年記念誌」作成委員会（委員長：荒木栄一）を構成し、平成 28 年 5 月 18 日、12 月 17 日の 2 回委員会を開催した制作委託先出版社は候補 3 社によるプレゼンを実施、検討の結果、出版実績、価格設定の適正さ（見積金額：729 万円税別）による優位性をもって、株式会社出版文化社に委託することを作成委員会で決定し、理事会の承認〔理事会決議 No.JDS2016-No.007〕を得た。作成委員会および理事会での協議検討を経て目次構成とその執筆者を決定し、平成 29 年 2 月末～3 月上旬に、5 月 8 日を原稿締切期限とし、各執筆者への依頼を行い、全執筆者から承諾の回答を得た。引き続き、作成委員会において、「写真でみる日本糖尿病学会の 60 年」「年表でみる日本糖尿病学会と糖尿病学の歴史」「データでみる日本の糖尿病学」「日本糖尿病学の歴史」について最新データを追加するなど、作成作業を進めて行く予定である。

3. 「糖尿病学の進歩」開催について

第 53 回「糖尿病学の進歩」

会 期 平成 31 年 3 月 1 日（金）・2 日（土）
（予定）

会 場 リンクステーションホール青森ほか
（予定）

世話人 大門 眞（弘前大学大学院医学研究科）

※第 54 回「糖尿病学の進歩」の開催支部が中部支部に決定した。

4. 平成 28 年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上、平成 28 年度収支決算書が承認可決された。（本号 p50～p75）。

5. 平成 30 年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上、平成 30 年度事業計画が承認可決された。(本号 p76～p77)。

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した武田倬会員、梅田文夫会員、小池隆夫会員、横野浩一会員、佐藤譲会員、加来浩平会員、春日雅人会員が定時社員総会において承認された。

7. 次々会長（第 63 回学術集会）の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第 63 回会長に前川聡会員が選出され、定時社員総会において承認された。

8. 第 61 回年次学術集会に関する件

平成 30 年 5 月 24・25・26 日の 3 日間、東京国際フォーラムほかにおいて開催の予定である。

9. 各種委員会委員の交代等に関する件

1. 任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった。

「糖尿病」編集委員会

北海道支部	三木 隆幸	札幌医科大学
東北支部	島袋 充生	福島県立医科大学
関東甲信越支部	大杉 満	国立国際医療研究センター病院
	永井 義夫 金澤 昭雄	聖マリアンナ医科大学 順天堂大学
中部支部	薄井 勲	富山大学
近畿支部	廣田 勇士	神戸大学
	松岡 孝昭	大阪大学
中国・四国支部	谷口 晋一	鳥取大学
九州支部	西尾 善彦	鹿児島大学

※今回改選の委員のみ掲載

「食品交換表」編集委員会

東北支部	山口 宏	山形県立中央病院
関東甲信越支部	窪田 直人	東京大学
近畿支部	田中 武兵	京都府立医科大学
九州支部	下田 誠也	熊本県立大学

※今回改選の委員のみ掲載

「治療の手びき」編集委員会

北海道支部	関口 雅友	札幌厚生病院
東北支部	村上 宏	弘前大学
関東甲信越支部	河合 俊英	東京都済生会中央病院
近畿支部	長嶋 一昭	京都桂病院
九州支部	土井 康文	麻生飯塚病院

※今回改選の委員のみ掲載

2. 下記委員会において委員の交代が承認された。

○英文誌編集委員会 委員交代

旧	新
塚本 和久 (福島県立医科大学)	山田祐一郎 (秋田大学大学院)

○「対糖尿病 5 ヶ年計画」作成委員会 委員交代

旧 委員長：植木浩二郎

委 員：綿田裕孝、今川彰久、成瀬桂子、南昌江、矢部大介、山内敏正、安孫子亜津子、石垣 泰、曾根博仁、藤本新平

新 委員長：綿田裕孝

委 員：植木浩二郎、今川彰久、成瀬桂子、南昌江、矢部大介、山内敏正、太田嗣人、金子至寿佳、原 一雄、脇嘉代

※下線の委員が、退任（旧）または就任（新）

10. 平成 29 年度選挙管理委員会委員承認について

細則第 44 条により、下記の様に承認された。

北海道支部	渥美 敏也	西成病院糖尿病センター
東北支部	檜尾 好徳	仙台市立病院
関東甲信越支部	弘世 貴久	東邦大学
中部支部	榊原 文彦	住吉町クリニック
近畿支部	絵本 正憲	大阪市立大学
中国・四国支部	奥屋 茂	山口大学
九州支部	水流添 覚	天草市立栖本病院
会長経験者	稲垣 暢也	京都大学大学院

11. 「糖尿病学の進歩」運営委員会委員について

細則第 48 条④および「糖尿病学の進歩」運営委員会規定により、下記の様に決定された。

第 51 回「糖尿病学の進歩」世話人	中村 直登
第 52 回「糖尿病学の進歩」世話人	井口登與志
第 53 回「糖尿病学の進歩」世話人	大門 眞
第 60 回年次学術集会会長	中村 二郎
第 61 回年次学術集会会長	宇都宮一典
学術担当常務理事	荒木 栄一
庶務担当常務理事	植木浩二郎
会計担当常務理事	中村 二郎

12. 学会後援について

申し込みのあった 6 件を後援することとした。

1. ISN Frontiers 2018 平成 30 年 2 月 22 日～25 日
2. 第 29 回分子糖尿病学シンポジウム

平成 29 年 12 月 2 日

3. 第 29 回日本糖尿病性腎症研究会

平成 29 年 12 月 2 日～3 日

4. 第 4 回チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト
～平成 29 年 12 月 31 日

5. 第 23 回口腔保健シンポジウム

平成 29 年 7 月 8 日

6. 「栄養の日・栄養週間 2017」

平成 29 年 8 月 1 日～7 日

13. 日本糖尿病学会糖尿病専門医制度規則改定について

専門医制度規則の改定が学術評議員会において承認された。

以上 文責 庶務担当常務理事 植木浩二郎